

2024 年 9 月 9 日作成 Ver. 1.2

《情報公開文書》

自己免疫疾患における免疫複合体研究

研究の概要

【背景】自己免疫疾患では自己のタンパク質に対する抗体によって体内で抗原-抗体複合体(免疫複合体)が形成され、増加した免疫複合体が沈着した組織で炎症を起こすとされています。しかし、多くの疾患でどのタンパク質が抗体の標的となっているか明らかになっておらず、根治的な治療法も開発されていません。一方、免疫複合体はそれぞれの疾患や症状によって量、大きさ、構成されるタンパク質が異なることが報告されています。

【目的】本研究では、様々な自己免疫疾患の血清中の免疫複合体の特徴を調べ、それぞれの疾患で免疫複合体がどのように病態に関わっているかを明らかにします。

【意義】本研究によって免疫複合体の特徴が明らかになれば、自己免疫疾患の原因の解明や根治的な治療法の開発につながる重要な情報が得られる可能性があります。

【方法】自己免疫疾患患者の血清検体に含まれる免疫複合体の量、大きさ、補体成分の結合有無、抗体の種類をそれぞれ調べ、それぞれの疾患や症状での免疫複合体の特徴を調べます。

対象となる患者さん

長崎大学病院(リウマチ・膠原病内科、消化器内科、腎臓内科)、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域医学学分野ならびに国立病院機構長崎医療センターで診療・および以下の研究目的で過去に収集された全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、強皮症、シェーグレン症候群、皮膚筋炎、ANCA 関連血管炎、IgG4 関連疾患、クローン病、潰瘍性大腸炎、原発性胆汁性胆管炎、自己免疫性肝炎、IgA 腎症の治療を受けた方、および健常人ボランティアの方を対象とします。

研究課題名

- ・関節リウマチ：「地域における生活習慣が影響を与えると考えられる疾患の追跡研究」
- ・強皮症：「全身性強皮症の病因、治療反応性ならびに予後に関する観察および細胞生物学的特徴の解析」
- ・シェーグレン症候群：「血清、唾液および唾液腺組織を用いたシェーグレン症候群の病態と病因についての研究」
- ・IgG4 関連疾患：「IgG4 関連疾患における免疫複合体解析」
- ・健常人ボランティア：「イムノコンプレキソーム解析法の創製とその臨床応用」, 「地域における生活習慣が影響を与えると考えられる疾患の追跡研究」, 「抗好中球細胞質抗体 (ANCA) 関連血管炎における血清中免疫複合体の関与についての検討」

研究に用いる試料・情報	
●研究に用いる情報 下記の情報を診療録より収集します。 診療録の基本情報（性別、年齢、既往歴、薬剤歴、家族歴）、症状、検査所見（血算、血液分画、血液像、凝固系、AST、ALT、Bil、GTP、BUN、CK、Alb、GFR、Col、TG、Na、K、Cl、Ca、BS、HCO₃⁻、アンモニアなど）、免疫血清検査結果（IgG、IgA、IgM、補体、抗体検査結果）など ●研究に用いる試料 診療・研究目的で過去に収集された血清試料を使い、免疫複合体の特徴を調べます。 本研究で利用する試料・情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。	
試料・情報の利用開始予定日	
本研究は2024年10月10日より「研究に用いる試料・情報」を利用する予定です。 あなたの試料・情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。 ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。 あらかじめご了承ください。	
研究実施期間	
研究機関長の許可日～2030年3月31日	
研究実施体制	
研究代表者	所属：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 実践薬学分野 氏名：相原希美 住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1 電話：095（819）8569
共同研究機関／研究責任者	長崎医療センター ／中村 稔
長崎大学病院における 試料・情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長
問い合わせ先	
【研究の内容、試料・情報等の利用停止の申し出について】 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 実践薬学分野 相原希美	

〒852-8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号

電話：095（819）8569

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療相談室 095（819）7200

受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）